

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 清水 義昭



平成28年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年月日	視察先	視察項目及び成果等
2016年10月17日	千葉県市川市	PFI複合施設について
2016年10月18日	静岡県富士市	災害現場の画像を無線で送るシステムについて
↑	静岡県菊川市	子ども議会&議会報告会について

豊明市議事課
28.11.-1
分類 . . . 30-10-5-1
可・否・一部否・一時否
第616号 受付

(注) 別紙添付も可能とします。
(注) 本報告書は5年間公開します。

視察報告書

2016年11月01日

清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2016年10月17日

場所：千葉県市川市

項目：PFI複合施設について

概要

老朽化した中学校校舎と給食室の建て替えに際して、公会堂、保育園といった地域ニーズの高い施設を併設した複合施設を整備し維持管理を行う。さらに、別のPFI事業として実施されるケアハウス、デイサービスセンターも同じ建物の中に整備され2つのPFI事業で構成されている。

詳細

市立中学校の老朽化の著しい校舎1棟において改築の検討を教育委員会で始めた。当初は校舎のみの建替えて検討を進めていたが、調理環境の向上を目的に給食室も建替えることにした。さらに、新校舎の余裕容積を有効に活用して、市民からの要望が高い大規模集会施設（公会堂）、さらに保育所、高齢者施設（ケアハウスとデイサービスセンター）についても整備することにした。

多世代の人々が1棟の建物に集う複合型施設を整備することで、新時代の教育に対応できる学校にするだけでなく、少子高齢化、核家族化が進む地域で多世代が交流する「ふれあい・交流」の拠点として整備することを目指した。

これらの狙いを実現するために、企画課主導で平成11年に施行されたいわゆるPFI法に基づくPFI手法により、民間事業者のノウハウや創意工夫を活用した施設整備を行った。複合施設とした理由は、施設整備費の低減によるライフサイクルコストの縮減や、国等の支援措置の活用も狙いとしたこともある。

各施設は鉄の扉で施錠されているためセキュリティ上の問題はない。狙い通り様々な世代での交流が行われている。PFI方式を採用したことで26%のコスト削減を果たすことができた。

感想

市内部部署の責任の所在や事務が複雑になることが改善できるのであれば、PFI導入により民間事業者のノウハウなどを取り入れられることや大幅なコスト削減ができることは大いに参考となったため、時期を見て提案を行っていきたい。

視察報告書

2016年11月01日

清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2016年10月18日

場所：静岡県富士市

項目：災害現場の画像を無線で送るシステムについて

概要

災害時に災害現場で撮影した画像を災害対策本部に送り、本部において災害の状況を確認することができるシステムを構築した先進事例。

詳細

市の防災部署が担当し、携帯電話の電波帯（FOMA）を使用した画像転送システムを平成22年度に導入。導入経費は6千万円弱。災害現場で撮影した画像を災害対策本部に送る。導入はしたが携帯電話の電波帯では回線速度が遅いため実用的な運用は難しく、特に動画では解像度を上げると細切れになり解像度を下げると粗くて見えないという状況。機器は10台ほどあるが本部から持って行かなければならないので緊急時には使いづらい。現在はほとんど使用されていない。

平成27年度より職員が個人のスマートフォンやタブレットなどで画像を撮り専用のメールアドレスに送ると災害対策本部に伝送され管理できるシステムを構築。回線速度が速いのが特徴。送られてきた画像を地図上に貼り付けるなどして本部で活用する。このシステムの構築はソフトウェアの製作費用のみで済み、委託先が作成したソフトウェアの製作費用は400万円代と安価。災害現場近辺にいる職員が、持ち合わせた個人のスマートフォンで撮影した画像を利用できるため、特別な機器が不要で使い勝手が良い。通信インフラの整備が進んだことで実現に至った。通信会社のリスク管理が行き届いたことにより、大規模な災害が起こった場合においても通信が行えなくなることはほとんどない。

感想

平成22年度に導入した画像伝送システムについては、技術進展の先読みを誤ったもので、本市においてはこのような誤りをしないよう注意を払いたい。平成27年度に導入したシステムにおいては、災害時に情報の伝達を迅速に行うのに有効な手段であると考えられるため、情報技術の先行きを調査し、本市に合わせた形で適切な時期に提案をしていきたい。

視察報告書

2016年11月01日

清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2016年10月18日

場所：静岡県菊川市

項目：子ども議会および議会報告会について

概要

子どもが本会議場にて模擬議会形式で発言する子ども議会、および議会としての報告会を市内各地で行う議会報告会の先進事例。

詳細

○子ども議会

目的は、子どもたちに模擬議会の体験を通じて、議会や市政について関心を持ってもらう。また、未来を担う子どもたちの自由な意見・提言を聞いて、まちづくりの参考にすること。

当時の議長が急に開催を提案したため準備期間が短かく中途半端になり教育委員会は困惑していた。学校側はできれば夏休みに開催して欲しいとの意見があった。

実施主体は議会であったが、日程調整がうまくいかず全議員が参加することができなかった。参加議員は子どもたちの原稿のベタ打ち、お茶出し、当局席に座る程度。答弁は講評と言う形ですべて市長が行ったが、講評の中で子どもの名前を入れたことが好評であった。

○議会報告会

17名の議員のうち7名で構成される議会報告会企画委員会にて会場やスケジュールなどを決定する。

小学校学区単位市内11地区を4～5人の各グループに分かれて報告会を行い、市内を一巡した後に全員参加の全体の報告会を行う。該当地区の議員は該当地区の報告会員としての参加はできない。地区別報告会は19時開始。若い世代や女性に参加してもらうため児童館に併設した会場を選択したりなどした。

感想

子ども議会では子どもたちにたくさんの関心を持ってもらえるように、議会報告会では議会のことをしっかりと伝えられるように、本市の現状にあった形で準備に十分な時間をかけて進めていく必要があると感じたため、今後の参考にしたい。